



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〜第二十九号〜

雨水

二月十九日



神宮スギ

毎年二月十七日は、伊勢神宮の祈年祭。「としごい」の祭とも言われ、農耕始めにあたって祈るといふ大切なお祭りです。この頃、内宮へ行くと神域のスギもずいぶん赤くなってきました。スギの花も咲いて、花粉も飛び始めました。春先の花粉症シーズンの始まりです。スギの大木が覆う内宮はさぞやと思われませんが、花粉症歴が十年になる私も不思議と神域ではあまり症状がでません。マスク姿の神職さんも見かけたことはありませんから、やはり神域は清らかな空気なんでしょう。

春先にはやたらと目の敵にされるスギですが、三重県の県の木は、「神宮スギ」なのです。

三重県農林水産部が発行した冊子によると、昭和四十五年の大阪万国博覧会を記念して、昭和四十一年に県の木の選定が行われました。三重県を代表する木として「神宮スギ」「ヒノキ」「クスノキ」の三つを選び、県民投票を行ったところ、十一万票の投票のうち、実に七十三%あまりを得票したのが「神宮スギ」でした。それで「神宮スギ」を県の木に、準県の木に「ヒノキ」が選ばれたというのです。「神宮スギ」は、伊勢神宮神域林の主林木。神宮の老スギや、そこから得た種子で育ったスギのみを呼び、他のスギとは区別されています。選定が花粉症のない時代だったから、とも思えますが、神宮のスギは古くから神杉とも歌に詠まれ、やはり別格なのでした。

物いはば神路の山の神杉に過ぎし神代のことぞ問はまし

本居宣長

文 千種清美

